

## 事例9

### 「ぼくのわたしの風神雷神」(第5学年図工・国語科)

1. 単元名 「ぼくのわたしの風神雷神」
2. 目標
  - ・風神雷神の主題に興味をもち、日本の伝統的な美術の発想よさやおもしろさを知る。
  - ・日本の伝統的な美術から発想して、表現しようとする意欲をもつ。
3. 指導計画 全9時間

第1次	俵屋宗達「風神雷神図屏風」鑑賞	…1時間	4月15日
第2次	風神雷神図制作	…6時間	5月～6月
第3次	鑑賞	…2時間	6月14日
4. 指導について
  - 書く活動を授業の中に取り入れる
  - (1) 第1次鑑賞
    - ・「教科書 p.4 の『風神雷神図屏風』を見て、気がついたこと」を書く。
    - ・みんなで発表した後、「今日の授業で勉強したことで、思ったこと・考えたこと」を書く。
  - (2) 制作後 「題名」「絵にそえる文」を書く。  
手立て・絵を描くことは、感動(心の動き)を形にするので、それだけ思い入れがあり、書く材料(内容)があるということになる。
    - ・題名、絵にそえる文を例示することで、書く意欲を高める。
  - (3) 観賞後 友だちの絵の感想を書く。
5. 指導の流れ
  - 第1次 鑑賞指導(1時間)
  - (1) p.4の俵屋宗達「風神雷神図屏風」を見る。
    - ・「風神・雷神」の意味、昔の人の自然観について説明する。
    - ・実際の大きさをイメージさせる。(同じ高さの保健室のついたてを運んでおく)
    - ・「原色日本の美術 14 宗達と光琳」(小学館 山根有三)で、風神と雷神の実物大の顔を見せる。(顔の部分だけを大きくしたページ)
  - (2) 各自、気付いたことを書く。
    - ・風神と雷神を比べて見て。
  - (3) 発表する。  
児童の気付き…印象、容貌、持ち物、服装、色彩、周りの様子(雲など)
  - (4) 「風神雷神図屏風」について説明する。
    - ・雷神の太鼓が切れていて、画面の広がりを感じられる。
    - ・白色の流れが効果的に使われている。
    - ・金、銀、墨の使い方が特徴的。
    - ・俵屋宗達は扇屋という説もある。この絵は、扇の絵の構図に共通するところがある。(実際に扇を見せる)
    - ・屏風に描かれた絵である。(屏風のように折って見る)風神雷神が立体的に見える。
  - (5) 今日の授業で勉強したことで、思ったこと・考えことを書く。
  - 第2次 「ぼく・わたしの風神雷神図」制作(6時間)
  - (1) 教科書 p.2～4の作品を見て、それぞれ自分の風神雷神のイメージで描くことを知る。
  - (2) 風を起こしたり、雷を起こしたりする神様だから、大きさとか力強さが出るようにする。
    - ・顔、ポーズ、持ち物、色、構図(紙からはみ出してよいなど)を工夫する。
  - (3) 割り箸ペンに墨汁で下書きする。
  - 第3次 制作後、友だちの絵の鑑賞(2時間)